



熊本地震からの復旧と防災対策

熊本県立第一高等学校 司書 吉村美友紀



復旧後の学校図書館の様子。

熊本地震から約一年

平成二八年四月、熊本地震の震源地に近い図書館ではたくさん被害が出ました。本校図書館では、いくつかの書棚が倒れましたが、破損はほとんどありませんでした(地震後の様子が写真ニュースに載っています)。今現在、校内には未だ復旧が手付かずの場所もありますが、図書館は完全に復旧して開館しています。しかし県内を見ると、本校のようにすでに復旧している所もあれば、破損した本棚の代わりがようやく届いて本を整理し始めた所や、この夏から被災した図書館棟の解体が始まるという学校もあります。

今回の地震を体験して、熊本県高

等学校教育研究会図書館部会で高校図書館の被害調査を進めています。今後の万全の対策についてはまだ結論が出そうにありません。しかし、今回の調査でわかってきていることでもあります。例えば複数の転倒防止策をとっていた書棚や台形型の書棚には転倒がなかったということです。特に台形型の書棚については、多少の位置移動はあったものの、本の落下も少なかったようです。さらに台形型で棚板が奥に傾斜している書棚では、本校でも本の落下が全くありませんでした。

一方で転倒防止策をしていても、書棚が倒れてしまった学校もありました。「複数の棚を壁際に配置し、天つなぎをして壁に固定していたが、固定が一つだけだったので倒れてしまった」、「床にボルトで固定をしていたが、床の強度が足りず床ごとはずれてしまった」など、様々です。

防災対策の提案

今回の地震は、夜間の閉館時間に起こりました。これが開館中、生徒たちがいたらと思うとその被害の大きさにぞっとします。今後、図書館としてはできる限りの防災対策が必要で、台形型の書棚や免震機能の

付いた書棚などにすべて取り換えられれば安心ですが、ほとんどの図書館では高価すぎてすぐには手が出ないと思います。しかし早急に行える対策を考えなければなりません。

そこで防災対策として、三つの視点を提案します。一つ目は「避難通路の確保」です。出入り口付近の棚や書棚のレイアウトを考え、本が落ちても通れる広さを確保しておく必要があります。二つ目は、「揺れで落ちるような箇所をできる限り作らない」ことです。額や割れもの類はできるだけ配置しない、棚の上にカラーボックス等を置く時は固定する、などが考えられます。また、書棚の本は必ず落ちます。特に上段は落ちやすいので、重くて大きな本は下段に置くなどの工夫が必要です。三つ目は、「逃げる時間を稼ぐために固定を行う」ことです。直立の書棚では、天つなぎや床固定にしても震度五強以上の地震では弱い部分から壊れたり倒れたりします。しかし、逃げる時間を稼ぐという視点で考えれば十分に有効な手段であるといえるでしょう。私たちは日々、生徒たちの大切な命を預かっていることを忘れず、不測の事態にもできる限り対応できる意識を持って働く必要を強く感じます。